

# 公民連携で安定給水の礎を

## 八戸圏域水道企業団と森田鉄工所 バルブに馴染む講習会で研鑽

八戸圏域水道企業団は、平成23年度から毎年「減圧弁講習会」を開催、メーカーから講師を招き、バルブ操作手法やその構造について学ぶことで日々の管路維持管理業務のレベルアップを図っている。本紙では、今年4月に同企業団技術研修センターで4日間開催された講習会を取材、管路施設の維持管理の充実へ公民が連携して技術力向上に努める取り組みをレポートした。



メーカー関係者の説明に真剣な面持ちで聞き入る受講生



メーカー関係者の指導を得てバルブ操作を体験

同企業団では、バルブ事業協議会の会員事業体等の管路施設の点検業務や関係企業も参加し、丸は直営で行っており、かねてより、メーカー（森田鉄工所）まで職員を派遣して、その操作方法や構造の理解に努めてきた。同企業団の技術研修センターが完成後の近年は、同センターに森田鉄工所の社員を講師として招き、同企業団職員も講師として、同企業団が会長を務める北奥羽地区水道

立作業を行うことで、あるいは「下げて」という講師の声に反応した受講生が自らの操作により水の出方を確認しながら、操作のツボが習得に励んでいた。

「実流装置」は、給水車から実際に水圧のかかった水を通し、減圧弁の下流側には消火栓や給水栓が配置されており、バルブ操作によって水の出入りが直ちに視覚的に理解できるようなっている。

この講習では、まず、森田鉄工所関係者から説明を受け、続いて受講生が操作を体験。「減圧弁下流側の圧力を上げて、

に臨んでいた。

同企業団の水道技術管理者である村上昇・事務局長は、「様々な操作を実際に行うことでバルブの構造・機能の理解を深めることができる」とその講習メニューに自信を覗かせる。また、講習の総括責任者である上野（うの）光弘（みつひろ）配水課副課長兼配水管理グループリーダーによると、実流装置の組み立ても職員が行うことで、「装置の組み立てでも大切な研修。また、過去の受講経験者や実務担当者がメーカー技術者とともに講師を務めるが、これもまた職員研修の一環」と一つの講習で重層的なスキルアップが図れる工夫がなされている。

同企業団は毎年20〜25カ所程度、バイパス管を用いるなどして減圧弁の分解整備を行っており、全ての減圧弁の分解整備を5年で一巡するようにそのメンテナンスを計画的に実施しているほか、



バルブ実機の分解・組立を通じて構造を理解



企業団職員に加え、北奥羽地区の関係事業体や企業からも参加

水道産業新聞

2018年（平成30年）5月21日（月曜日）

「株式会社水道産業新聞社 2018年5月21日付(8面)掲載記事」※株式会社水道産業新聞社の許諾を得て転載しています。記事の著作権は株式会社水道産業新聞社に帰属します。